

資料 2

公益的な活動への支援に関する提言
(答申案)

令和4年6月

富谷市協働のまちづくり推進審議会

目次

1. はじめに……………P 2
2. 市民の公益的な活動について……………P 3
 - (1)基本的な考え方
 - (2)目指すべき活動の姿
3. 市民の公益的な活動への支援における課題について……………P 4
 - (1)市民、地域の視点からの課題
 - (2)支援施設等の課題
4. 富谷市の支援の在り方について……………P 9
5. 参考資料……………P10
 - (1)審議会等開催経過
 - (2)富谷市協働のまちづくり推進審議会 委員名簿

1. はじめに

富谷市では、平成28年の市制移行を機に、よりよいまちづくりを進めていこうという市民の思いや活動が、これまでも増して高まってきています。

都市化が進み、発展し続けている富谷市において、市民の公益的な活動が果たす役割は、これまで以上に重要となり、大きな期待も寄せられています。また、まちの魅力と持続可能性を高め、少子高齢化の進行や、災害発生時などの突発的な事態に柔軟に対応していくための原動力となるものです。

このような市民の活動への支援については、令和3年3月に策定した「わくわく つながる わたしたちのまちづくり ―富谷の協働ガイドライン―」の中で、市民が活動しやすい環境整備を位置付け、その必要性が示されています。

富谷市が市民協働のまちづくりを推進する中で、このたび、公益的な活動への支援について諮問がなされたことから、本審議会は、市民の意見として、この提言書をまとめることとなりました。

令和2年に発生した、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、市民の活動が大きく制約されるなど取り巻く環境は一変し、今もなおその影響は続いています。

この提言書を踏まえ、時代の変化と市民ニーズに対応した、市民が活動しやすい環境が計画的に整備され、市民の活動が笑顔や幸福感につながる、より豊かで持続可能なものとなることで、富谷市の市民協働のまちづくりがさらに進展することを切に願います。

最後に、本審議会の提言を取りまとめるにあたり、市民協働セミナーにおいて市民の意見を聴取し、反映する予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民協働セミナーが延期となったことから、今後、具体的な支援方針を検討する中で、市民の意見を丁寧に聴取し、反映していくことを期待します。

2. 市民の公益的な活動について

(1) 基本的な考え方

市民の公益的な活動は、市民の主体的な参加に支えられています。市民が、いかに自分たちの手で自分たちが住んでよかった、住み続けたいと思える地域を作っていくかということを意識し、市民による市民のための活動に主体的に関わることが基本的な姿勢と考えます。

(2) 目指すべき活動の姿

市民の公益的な活動の主たる目的は、自分たちの手で、住み続けたい魅力ある地域を作っていくことです。その中で、富谷市における市民の公益的な活動は、次のような活動を理想と考えます。

- ① 市民にとって身近な居場所となり、生涯にわたって活躍できる場となる活動であること。
- ② 地域の良さを見出し、地域をクリエイト(創造)する活動であること。
- ③ 多世代が交流する場となる活動であること。
- ④ つながりを作り、連携が促進され、地域人材を育む活動であること。
- ⑤ 自然環境や農業など、富谷市ならではの地域資源や地域人材を生かす活動であること。
- ⑥ 市民が自らできる活動を創出し、発信する活動であること。

3. 市民の公益的な活動への支援における課題について

(1) 市民、地域の視点からの課題

市民の公益的な活動への支援について検討するにあたり、市民の公益的な活動を促進し、前述した目指すべき活動の姿を具現化していくための支援における課題を次のとおり整理しました。

① 多様化する市民活動への対応

ア. 生涯現役、人生百年がうたわれる中、地域の元気につながる高齢者の活躍や居場所、つながりをつくるなど社会参加を続けるための支援が必要。また、町内会では後継者問題が顕在化している上に、コロナ禍の影響も受けており、魅力ある活動となるよう盛り上げていくための支援が必要。

イ. 健常者も障がい者も一緒に活動できるよう、ノーマライゼーション^{※1}の視点での支援が必要。

※1 ノーマライゼーション：障がい者や高齢者といった社会的な弱者に対して特別視せず、誰もが社会の一員であるといった捉え方

ウ. 町内会館、公民館の利用が活発な地域がある一方、人が集まりにくくなっている地域があるなど、地域によって課題が異なることから、地域の実情に応じた支援が必要。

エ. 子どもや若者が市の取組や地域の活動を身近に感じる機会を増やし、次世代の人材育成につなげていくための支援が必要。

② 分野や地域を越えた連携・つながりの促進

ア. 田園や森林が広がる地域がある本市の特性を生かし、これらの地域の町内会とNPOが連携するなど、分野や地域を越えた、各々の活動主体の長所をつなぐ支援が必要。

イ. 移住の受け入れや活動人口を増やす取組などを通して、活力が低下している地域に新たな連携やつながりを生み出していくための支援が必要。

③ 地域資源(人材、施設)の活用

ア. 支援の拠点となっている、とみぶら、ボランティアセンターは、居住する地域によっては距離的に利用しづらいことから、公民館など既存の施設を活用した身近な場所での支援も必要。

イ. 市民の活動の場として、子どもや若者も参加しやすいよう、最も身近な町内会館の活用を促進させていくことが必要。

ウ. 既に活動をしている市民や団体が、活動を始めようとしている人や活動に悩みを抱えている人を支援する仕組みづくりが必要。

④ 情報の発信と共有

ア. 市民が活動を始める時の第一歩を踏み出しやすくするような、誰もがわかりやすい情報を発信し、浸透させていくことが必要。また、多くの人に施設を利用してもらえるよう、情報発信の方法を工夫することが必要。

イ. 活動の事例やノウハウをまとめたケースブックのようなものを作成するなど、市民の活動などを可視化し、広く共有するための支援が必要。

(2) 支援施設等の課題

現在、富谷市には、市民の活動を支援する主な拠点施設として、富谷市まちづくり産業交流プラザ(とみぷら)、公民館 6 館、富谷市社会福祉協議会が運営している富谷市ボランティアセンターがあります。

また、行政の担当部署となる市民協働課においては、市民協働のまちづくり推進に関する方針の策定を行うなど、市民協働に係る総合的な企画及び調整などの役割を担っています。

今後、それぞれの支援施設が連携し、情報を共有しながら、より市民が利用しやすい施設として機能を充実させていくことが必要です。また、それぞれの支援施設が連携していくうえでは、市民協働課が中心となり、総合的な調整を図るとともに、市民協働のまちづくり推進に向け、富谷の市民協働のシンボルとなるような取組を創出し、活動やまちづくりに参加する市民をこれまで以上に増やしていくことが必要です。

今回の諮問においては、主にソフト面の機能について答申を求められているところですが、今後、ハード面の機能について、具体的に課題を整理し、検討を進めるうえでは、それぞれの支援施設をはじめ、町内会が管理運営している町内会館や、公園、道路などの公共空間など、様々な既存の施設等を最大限に活用し、可能な限り、市民の身近な場所で支援を行っていくことを考慮していくことが必要です。

なお、現時点において、支援施設が抱えている主な課題については、それぞれの施設に聞き取りを行い、次のとおり取りまとめました。今後、総合的な視点で、それぞれの施設の課題を捉え、改善を図っていくことが必要です。

① 富谷市まちづくり産業交流プラザ(とみぷら)

ア. 起業希望者が出店する場合に市内に適切な候補地が見つかりづらい。

イ. 入居事業者の増加により、新規に施設への入居希望があっても入居が困難となっている。(施設面)

② 公民館

ア. 利用者及び参加者のニーズに応えるためのスキルアップが必要。

イ. 築 30 年を超える施設が多く、経年劣化も見られることから、利用者の安全を図るための整備が必要。(施設面)

③ 富谷市ボランティアセンター

ア. 誰もが気軽に相談でき、タイムリーな支援を可能にするための地域ごとのボランティアセンターの構築や、災害時のボランティア体制構築時などに支援を拡充するための職員の確保。

イ. 打合せや交流のためのいつでも使用できる場所の確保が難しい。(施設面)

④ 市民協働課

ア. 専門的な相談対応や十分な情報提供、チラシの備付けなど活動団体が利用できるスペースの確保、活動団体同士の交流の場の拡充が必要。

イ. 市民の活動の情報収集や分析を行うなど、市民の活動の現状を総合的に把握することが必要。また、横のつながりなど調整を図っていくための体制を構築していくことが必要。

4. 富谷市の支援の在り方について

市民の公益的な活動が活発に展開され、持続可能な活動としていくためには、市民が活動しやすい環境を整備し、支援の充実を図っていくことが不可欠であり、とりわけ、以下に示す支援が行われることを期待します。

なお、支援施設等については、既成概念にとらわれず、これまでとは異なる方法で既存の施設を活用するなど、時代の変化に合わせ、今ある施設を生かしながら支援の充実を図っていくことが望まれます。今後、本提言を踏まえ、具体的な支援方針の検討が行われることを期待します。

- 子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、全ての市民の活動に対する支援
- 市民の新たなチャレンジを後押しする支援及び持続可能な活動にするための支援
- 地域性や活動の段階に応じたきめ細やかな支援及び身近な場所での支援
- 町内会をはじめとする市民の活動への参加意識を底上げしていくための支援
- 豊かな自然環境や農業など富谷市の地域資源を生かしながら、多様な連携・つながりをつくるための支援
- スキル、経験のある市民が、市民の活動を支える仕組みづくりの支援
- 市民の活動を可視化し、広く共有するための支援
- 多様な協働を促進するための支援

5. 参考資料

(1) 審議会等開催経過

年 月 日	内 容
令和3年12月16日	第1回富谷市協働のまちづくり推進審議会 諮問（公益的な活動への支援について）
令和4年 1月23日	市民協働セミナー（テーマ:コロナ禍での町内会活動・市民活動 の現状） ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期
令和4年 3月23日	第2回富谷市協働のまちづくり推進審議会
令和4年 5月22日	市民協働セミナー（テーマ:コロナ禍での町内会活動・市民活動 の現状） ※新型コロナウイルス感染症の影響により再延期
令和4年 6月24日	第3回富谷市協働のまちづくり推進審議会
令和4年 6月30日	第4回富谷市協働のまちづくり推進審議会 答申（公益的な活動への支援について）

(2) 富谷市協働のまちづくり推進審議会 委員名簿

任期：令和2年7月1日～令和4年6月30日

No.	委員構成区分		氏名	所属等 (令和4年6月時点)	備考	
1		学識経験者	佐々木 秀之	宮城大学 事業構想学群 准教授	会長	
2	協働のまちづくりに関し識見を有する者	関係機関・団体関係者	佐藤 怜美	社会福祉法人 富谷市社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター		
3		関係機関・団体関係者	日諸 喜代子	公益社団法人 富谷市シルバー人材センター 事業推進専門官		
4		関係機関・団体関係者	大谷 沙織	富谷市PTA連合会 監事		
5		公益活動団体関係者	地縁団体	平岡 政子	明石台第二町内会 会長	会長職務代理者
6			地縁団体	佐藤 政悦	二ノ関町内会 会長	
7			特定非営利活動法人	村上 幸枝	特定非営利活動法人 SCR 代表	
8			ボランティア団体等	増田 恵美子	Narita マルシェ 代表	
9			公募市民	北野澤 泰		
10		公募市民	菅野 勇成			